

塾長からのメッセージ

元気があれば何でもできる

光あふれる春がやってきました!

「春の思いは強く優しく!

君の「春の思い」は輝いていますか?

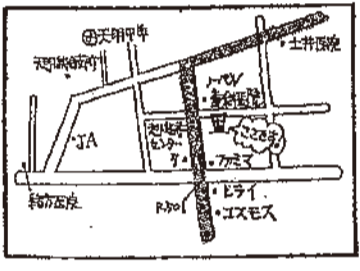
- 希望に満ちた春**
「希望」は君が新しい一歩を元気に踏み出す。
- 成長を始める春**
新しい明日のために、今こそ自分を思い直そう。
- 長い冬に耐えた春**
苦しいこと辛く感じ、耐えてきた君は、この春を強く。
- 全てのものに優しい春**
人に優しく、自然にも優しく、自分自身にも優しく。

今年も当塾は君といっしょに「春の一歩」を始めます!

暖冬と言われてもやはりそれなりに寒かった今年の冬も、終わろうとしています。そして三月は、別れの季節でもあります。卒業式で流される涙は、悲しみの涙ではなく希望の涙です。君たちの元気を奪っている私はいつでも大きな可能性を感じます。「若い」ということは、本当にそれだけで十分に素晴らしいことであることを君たちは分かっているでしょうか。元気をだしていきましょう!! 思うようにいかないことがあっても、誰かに自分を誤解されるようなことがあっても、それでも君の元気があれば人生は必ず道が開けます。



春です! 君の元気があれば
何でもできる!!



熊本市南区銭塘町2136-8

日進塾

096(223)3151
HP <http://www.nissinjuku.com/>

百人一首の春の歌

百人一首の中の春の歌六首です。聞いたことのある歌もものではないでしょうか。日本の古典文学への興味を持つことで世界が広がるかもしれません。

百人一首とは普通藤原定家の『倉百人一首』を指します。



- 百人一首の中の春の歌六首です。
- 聞いたことのある歌もものではないでしょうか。
- 日本の古典文学への興味を持つことで世界が広がるかもしれません。
- 百人一首とは普通藤原定家の『倉百人一首』を指します。
- 歌書九 田原 古今和歌集
花の色はつりにけりな いたづらに ぬが身にたふるながめせしま
- 現代語訳 花の色は、つりにけりな、かり色あせてしまひました。時を身をたふるやりと眺め、ながめせしま。
- 作者 小野小町(9のころ、平安時代前期の女流歌人、六歌仙、三十六歌仙、女流三十六歌仙)
- 歌書十五 田原 古今和歌集
君がため春の野に出でて若菜つむ ぬが衣手に雪は降りつつ
- 現代語訳 君がため春の野に出でて若菜を摘む。ぬが衣手に雪は降りつつ。
- 作者 半原兼房(10のころ、平安時代末期)
- 歌書三十三 田原 古今和歌集
久方の光のどけき春の日にしづまひながら花の散るらむ
- 現代語訳 久方の光のどけき春の日にしづまひながら花の散るらむ。
- 作者 紀友房(10のころ、平安時代前期の官人歌人)
- 歌書三十五 田原 古今和歌集
人はいさ心も知らずふるふとは花ぞ昔の香ににほひける
- 現代語訳 人はいさ心も知らずふるふとは花ぞ昔の香ににほひける。
- 作者 紀友房(10のころ、平安時代前期の官人歌人)
- 歌書六十一 田原 古今和歌集
いにしへの奈良の都の八重桜 けふ九重ににほひぬるかな
- 現代語訳 昔奈良の都で咲き誇っていた八重桜が、今日は九重ににほひぬるかな。
- 作者 伊勢大輔(11のころ、平安時代中期の女流歌人、中古三十六歌仙、女流三十六歌仙)
- 歌書七十三 田原 後拾遺和歌集
高砂の尾上の桜咲きにけり 外山の霞立たずもあらなむ
- 現代語訳 高砂の尾上の桜が咲いたから、その花を眺めた、外山の霞も立たずもあらなむ。
- 作者 前田綱直(12のころ、平安時代後期の公卿歌人、公卿とは、本政官の最高幹部)

百人一首とは100人の歌人の和歌を一首づつ選んだ歌集。13世紀前半の成立と推定されます。